

北本の桜の ココがすごい!

1. 関東で「日本五大桜」が見られる唯一のまち!
2. 市内で見られる桜は 30 種類以上!
3. たくさんの桜スポットが歩いてめぐれる場所にある!

お花見しながらわいわいできる

さくらピクニックコース → p.4-5



北本の自然も満喫

さくらハイキングコース → p.6-7



石戸蒲ザクラ HISTORY



源範頼は源頼朝の弟で、「蒲御厨」(現・浜松市東区)で生まれたため「蒲冠者」(かばのかじゃ)と呼ばれ、義経と共に平家との戦で活躍しました。



最期は伊豆に流され亡くなったとされる範頼。実は生きていて、石戸に逃げてきた際に突いてきた杖が根付いて蒲ザクラになったという伝説があります。



江戸時代には範頼伝説とその巨木が評判となり、噂を聞いた滝沢馬琴の求めに応じて、渡邊華山が見事な絵をのこしています。



大正 11 年には国指定天然記念物に指定され、同時に指定された4本の桜と共に「日本五大桜」として現在もたくさんの人を魅了する、関東を代表する桜です。

さくらのまち きたもと

小さなまちの中に桜の名所がぎゅっとつまっている北本市。
気持ちのいい春は、さくら散歩に出かけよう。

石戸蒲ザクラ

樹齢八〇〇年。北本の桜のシンボル

さくらのまち「きたもと」を象徴する名木が樹齢八〇〇年を誇る「石戸蒲ザクラ」です。
「蒲ザクラ」という名前は、蒲冠者(かばのかじゃ)源範頼にまつわる伝説に由来します。樹種はエドヒガンとヤマザクラの自然雑種で「カバザクラ」といいます。自生する樹としては、世界でただ一本しかありません。
蒲ザクラは江戸時代後期には稀に見る巨桜として、江戸市中で評判になり、数多くの文人たちも訪れています。大正十一年(一九二二)には、樹種の希少性にも注目され、国指定天然記念物となり、「日本五大桜」として全国にその名が知られるようになります。
桜は、空高く伸びる太い幹と左右に広がるひこばえのシルエットが美しく、満開時に樹を見上げると、花が空を埋め尽くすようです。花弁は色が白く小ぶりであることが特徴で、このかわいらしい花を咲かせる姿を楽しみに、毎年3万人もの人が訪れます。



→明治時代に尾形月耕が描いた
蒲ザクラ 青木忠雄氏蔵

※日本五大桜：大正十一年に国が指定した巨桜。「石戸蒲ザクラ」の他に「三春滝桜」「山高神代桜」「狩宿の下馬桜」「根尾淡墨桜」が指定。



↑渡邊華山が描いた江戸時代後期の石戸蒲ザクラ
=下村克彦氏蔵

石戸蒲ザクラ 基本データ

所在地	東光寺境内(石戸宿 3-119)
文化財分類	国指定天然記念物
樹種	カバザクラ
樹高	12.1m
枝張り	南北 16.8m 東西 20.5m
根回り	最下部 7.2m

蒲ザクラと滝沢馬琴
滝沢馬琴は江戸時代の著名な読本作家です。
馬琴は蒲ザクラの噂を聞きつけ、友人である渡邊華山に桜の写生と範頼伝説の聞き取りを依頼しています。その内容は馬琴の「玄同放言」に詳しく記載されており、蒲ザクラや東光寺境内にある板石塔婆の挿絵とともに紹介されています。挿絵中には「其樹の巨大さに想像(おもひや)るべし」と樹の大きさに感嘆する言葉が記され、また「花はひとえにしてしろしという」(花は一重で白いといわれる)という注釈も添えられ、桜の特徴も伝えています。